

# 在京花巻人

## 第34回「在京花巻人のつどい」



在京花巻人协会会长 瀬川 紘一

去る7月6日(土)、今年で第34回を迎えます「在京花巻人のつどい」を御茶ノ水の東京ガーデンパレス高千穂の間で開催し無事終了することが出来ました。これも一重に会員の皆様や関係各位のご支援・ご協力の賜物と、心より感謝を申し上げます。又、ご参加頂いた来賓として多くの会員の皆様の方る里花巻を愛する心には胸が熱くなりましたし、頭が下がりました。これからも、少しでも喜んでもらえるように、感謝の気持ちを忘れずに頑張らねばと、気持ちを新たに致しました。

又、今回は来賓として花巻市から上田市長、藤原副市長、長井副市長をはじめ総勢8名の参加を

頂きました。花巻市の活性化に向かって力強く施策を推進する上田市長の市政への大きな熱意を感じ、在京花巻人会としても花巻の活性化への貢献が改めて問われていると感じた次第です。

さて、「つどい」は今回も11時に司会の伊藤佳子アナウンサーの開会宣言があり、続いて「総会」の議事に入りました。平成30年度の活動報告と令和元年の活動計画は私から、平成30年度の決算と令和元年の予算は高橋良光副会長から説明させて頂き、全て議題は滞りなく承認頂きました。改めまして御礼を申し上げます。

「懇親会」では、まず上田市長と佐々木観光協

発行 在京花巻人会 連絡事務所

東京都千代田区飯田橋 4-4-8 東京中央ビル603号 電話 03-6256-8082



上田東一花巻市長

会会長からご挨拶を頂きました。上田市長からは、復興支援者住宅の完成、花巻病院の移転新築の進捗、中央公園完成など、活性化への施策を具体的に説明頂きました。又、佐々木観光協会会長からは、首都圏での花巻物産販売への在京花巻人会の協力で謝辞を頂いた後、新花巻駅の展示「ステップリン・花巻」のリニューアルや、ラグビーW杯の釜石開催関連の動きなど、花巻市の観光事業の最新の話題をお話頂きました。その後小原花巻市議会議長からご

挨拶と乾杯の発声をして頂き歓談に入りました。今年の懇親会のアトラクションは金津流横濱獅子躍で、8人の踊り手がフロアー杯に躍動し参加者を楽しませました。最



金津流横濱獅子躍

後は恒例の賢治を歌うコーナーで、及川慎先生の指導のもと種山ケ原、星めぐりの歌、そして精神歌を全員で合唱しました。

14時、高橋良光副会長による中締めがあり、今年の「在京花巻人のつどい」もお開きとなりました。二次会は御茶ノ水駅前

のレストランで開催、名残惜しんだ参加者45名が懐かしい話に花を咲かせました。

### 令和元年度 会費納入のお願いと納入状況

在京花巻人会の運営にご協力を賜りありがとうございます。花巻人会は会員の皆様からの会費で運営させて頂いております。会費は「花巻人のつどい」「会報の発行」「歩こう会」等に使用させて頂いております。令和元年度の年会費3,000円は6月1日付第57号会報同封の振込取扱票(手数料不要)で最寄りの郵便局より下記口座にお振込み頂きますようお願い申し上げます。

口座名義 在京花巻人会  
口座記号番号 00240-6-111794

令和元年度の年会費納入額は8月31日現在224名672,000円となっております。

皆様のご協力に感謝とお礼を申し上げます。  
会計担当 高橋良光 板垣雅子

### 「第35回在京花巻人のつどい」のお知らせ

日時：2020年7月11日(土) 11時～14時  
会場：東京ガーデンパレス  
住所：東京都文京区湯島1-7-5  
電話：03-3813-6211  
アクセス：JR御茶ノ水駅 聖橋口

来年は7月11日(土)同じ会場で第35回の「在京花巻人のつどい」を開催します。会員の皆様には来年も是非ご参加頂きますようお願い申し上げます。

『在京花巻人のつどい』に参加して



花巻市地域振興部 地域づくり課長 菊池 司

去る7月6日、東京ガーデンパレスにおいて開催されました「第34回在京花巻人のつどい」に出席させていただきました。ありがとうございます。

令和時代幕開けの年におかれましては、在京花巻人のつどいが、在京花巻人会の皆さまをはじめ、在京大迫人会、在京石鳥谷町人会、在京東和町友会の役員の方々、花巻からのご来賓の方々など総勢120名を超えるご出席者のもと、かくも盛大に開催されましたことを心よりお喜び申し上げます。

つどいでは、6月2日にホテルラングウッドで開催された「若手県人の集い」で初めてお目にかかった在京花巻ふるさと会の皆さまと再会するこ

とができ、皆さま方から「先月は、ごつもね！また、会えたね。」などと温かくお声をかけていただき、とても嬉しく思いました。また、同じテ

ブルで一緒に過ごしていただいた顧問の佐々木様とは、特に親しくお話をさせていただき、ご実家のご料亭を市役所でもよく利用させてもらっていることや26年前にわたくしの結納でもお世話になった話などとても盛り上がりました。

在京花巻人会の皆さまとは、在京花巻ふるさと会が主催される「花巻まつりツアー2019」で再びお会いできるということでも楽しみにしております。ツアーでは、9月14日に花巻まつり、15日に大迫ワインまつりをご覧いただくというこで、皆さまにふるさとの花巻を満喫していただけるよう、微力ではありますがありますがアテンドさせていただきますので、よろしくお願いたします。末筆になりますが、在京花巻人会の今後ますます

すの発展と、瀬川会長様はじめ、会員の皆さまのご健勝とご多幸をご祈念申し上げますとともに、引き続きのご厚誼を賜りますようお願い申し上げます、お礼のことばとさせていただきます。



高橋 滋明 (花中34年卒)

七夕の日は毎年「花巻人のつどい」の日でもあり、この集いに参加すると一年に一度しか会えない人にも会える日です。「暫くぶりでした」から始まって、なまった標準語で一年を振り返るのもこの日です。

瀬川会長さんの挨拶の中の、高齢化に伴う会員減少の懸念は「どうしたらいいのか」といつも思います。今年はずごく若い人達といういろいろな話をし、こういう人達の視点がこれからの道筋を創る人達ではないのかなと感じました。市長さんの話は、いつ

も解り易く熱意が伝わります。その一つの、被災者住宅は同級生の宮沢啓祐君の葬儀に参列した際に立ち寄りしました。一階にはコンビニが開店し、市街地の一郭に活気を注いでいる風情がありました。花巻の厳しい財政事情の中、大変なご苦労が見え感謝の気持ちでいっぱいです。

懇親会での獅子躍りは、種山ヶ原で躍るような「ダダスコダン」の残響を体中に残し、また、二次会でのいろいろな話題には笑いがいっぱいでした。解散後は、ほろ酔い加減？のなか、楽しかった話を思い出し、「一日八君臨シ〜カガヤキハ・・・」とつぶやきながら帰宅しました。



田中 幸の準 (西南中41年卒)

参加させて頂いて4回目ですが集いの状況が分かる様になりつつもまだ

会場では遠慮がちな自分でした。もう少し前から参加させて頂いたらと思っこの頃です。

毎年7月が楽しみですが、今年は私事で幹事の皆様にはご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。幹事さん達には一生懸命動いて頂き何とか連絡が取れ参加させて頂きました。

変更出来ない席順もご苦勞して頂き同席の方々とも楽しく会話も弾みました。もちろんお酒も美味しく頂きました。大迫ワインも毎年の楽しみの

ひとつですが差し入れのワインも本当に美味しくご馳走様でした。毎年ありがとうございます。

それもこれも(花巻人のつどい) 成功を導いているのは役員の方々の行動力、実行力の賜物と実感させられました。今年も隣同士の会話しかできず今後は各テーブルの方々とも積極的に会話等楽しみたいと思います。「在京花巻人のつどい」のますますの発展と共に末永く続けられるようお願いいたします。

令和元年度(第34回) つどい収支決算表

令和元年7月6日 於：東京ガーデンパレス

(単位：円)

	金額	摘要
収入	744,000	会員参加84名(会費9,000円) (内)夫婦参加4組 △12,000円
	270,000	来賓参加30名
	250,000	一般会計より補助
	132,760	寄付金
計	1,396,760	
支出	999,208	ホテルへの支払い
	135,914	お土産、持込酒類
	110,000	お礼(アトラクション、司会等)
	71,928	印刷代(つどい案内、ハガキ)
	49,827	諸経費(看板、ハガキ回収、荷物搬送他)
計	1,366,877	
残	29,883	残額は一般会計に戻し入れました

# 令和元年 在京花巻人のつどい



# 会員の活動報告コーナー

## 第45回「岩手県人の集い」に参加して

副会長 高橋 良光

6月2日(日) 日暮里のホテルラングウッドで県人連合会の総会(11時)と懇親会(12時)が開催されました。

連増県知事をはじめ市町村の首長の来賓を含めて320名が出席されました。花巻市からは市長の代理で地域振興部地域づくり課の菊池司課長が出席、花巻ふるさと会からは瀬川会長をはじめ15名の出席、県内ふるさと会の団体が約80ある中で一番人数の多い参加で花



巻の勢いを示すことができました。

鈴木会長の挨拶で始まり、知事からは三陸防災の復興プロジェクトの進行、ラグビーワールドカップの支援、花巻空港の国際化、県中央地域への大手企業の工場進出等今の県の状況説明がありました。次に花巻ふるさと会と会の瀬川絃一会長が今年4月より県連合会副会長に就任の挨拶がありました。懇親会でのアトラクションは金津流横濱獅子躍が披露されました。

当日岩手日報社の記者も出席しており、翌日の朝刊に県人会の様子が載りました。そこには花巻ふるさと会で出席した花巻南高卒の3人の「何年経っても故郷を思う気持ちは変わることが無く、またアメリカで活躍する菊池、大谷選手のニュースを聞く度に花巻の良さをアピールしてくれていることが嬉しい」という話がインタビュー記事で載っていました。4時ごろ閉会、解散となりました。

## 第25回近隣ふるさと会役員懇親会に参加して

理事 菊池 美津子

去る6月29日(土)、在京東和町友会が幹事となり浅草ビューホテルで開催された第25回近隣ふるさと会役員懇親会に参加してきました。8つのふるさと会から45名が参加、前回幹事の在京ふるさと天巾会の乾杯の発声で12時に開宴となりました。浅草ビューホテルは、

8年前の東日本大震災の直後に同じ在京東和町友会が幹事となり、開催するべきか否かなかなか結論が出ない中、蟹沢会長が開催を決定したという因縁の会場とのこと。改めてスカイツリーを眺めながら大震災当時を振り



返るとというのが今回のテーマ。ホテルの会場は、スカイツリーが真正面に見える26階で、生憎雨空でスカイツリーは半分ほどしか見えませんでした。ですが、テーマにぴったりの会となりました。

唐紅花のヌーベルシノワ(新作中華)に舌鼓を打ち、美味しいお酒で盛り上がったところで、各ふるさと会の出席者が挨拶。在京花巻人会からは瀬川会長以下5名の参加者が夫々ご挨拶させて頂きました。

最後は次回幹事の在京石鳥谷町人会の高橋会長による中締めがあり散会となりました。

## 岩手県人連合会「日赤献血支援活動」の報告とお願い

岩手県人連合会(以後「県連」と表示)の「日赤献血支援活動」は、平成13年から始まり、今まで県連が主催する活動の一つとして継続的に実施されてきました。現在は年2回、5月と11月に池袋東口の中州で実施しています。

今年の献血奉仕活動は、第1回目は5月26

日(日) 12時~16時、盛岡地区や一関いわい、久慈、二戸、気仙地区の県連加盟ふるさと会が担当して実施されました。献血協力者は68名(内献血者60名)と多くの協力を得ることが出来ました。ボランティア協力者は、

献血専用帽子、同メッセージバスタを着用、受付窓口の手伝いや東京赤十字血液センターから提供頂いたティッシュペーパーを配つての通行入への協力呼びかけなどの活動を行いました。

今年2回目は、11月10日(日) 12時~16時、同じ池袋東口で実施します。次回は、在京花巻ふるさと会を含む中部・胆江地区、宮古、釜石地区が担当します。会員の皆様にも是非ご協力をお願い致します。

連絡先: 高橋良光、携帯090(5448)8198 (編集部)

## 銀河プラザ

### 「岩手花巻物産展(6/7~9)」を訪ねて

6月7日から10日迄の4日間、銀河プラザイベントコーナーに於いて花巻観光協会3会員(共同農産、佐々長醸造、根クス



グループ)が展示し花巻物産展が開催されました。何時もと変わらない首都圏の花巻ファンや馴染みの在京関係など多くの皆様にお立ち寄り頂き沢山のお買い物をさせて頂き有り難いですと担当の小田島さんからお話がありました。

出展各社もユニークで特色ある商品で、一丁栽培のトマトなどは宝石のように色彩豊かに輝く芸術品、従来の花巻の素朴な物産のイメージから一転して新たな息吹を感じました。

又、佐々長醸造の「つゆ」の美味しい人気の秘密を社長にお話頂きましたがそれは早池峰山地から長い年月をかけて沸き出る美味しい水の恵みに感謝の心を忘れずに手間暇を掛け伝統を守り続ける社員皆さんのお陰一なぞです。(編集部)

## 《はなまき あれこれ》

### 花巻まち散歩マガジン「Machicoco(マチココ)」

「Machicoco(マチココ)」は、花巻の「まち」と「ひと」にスポットを当て、魅力を伝えることで街歩きに繋げる“花巻まち散歩マガジン”。出版企画・プロデュース・編集を手掛ける「オフィス風屋」の北山公路さんとグラフィックデザインを手掛ける「723DESIGN」の高橋菜摘さんが、2017年4月に創刊した偶数月発行の雑誌。今年の8月号で15号となります。

お二人は、「マルカン思い出写真集」制作に関わり、北山さんは全国メディアでも報じられた「マルカン大食堂の奇跡」の作者でもあります。北山さんはマルカン復活の活動への取り組みを契機に、花巻の魅力を発信する紙媒体を作りたいとの長年の構想を実現、自動車での移動が日常となり街から活気が消えつつある昨今、歩かなければ見えてこない街の魅力を伝えていきます。

紙面は、写真に存在感があり文章を短く仕上げているので、情報がスッと頭に入ってきます。何よりも取材が多岐にわたり、かつ貴重な情報を取り上げているので読み応えがあり、「ここに行ってみたい」「この人に会いたい」と思わせます。じわじわとファンを増やしており、リノベーション街づくりのきっかけにもつながりそう。1冊500円、協賛店で販売。

問い合わせは、合同会社オフィス風屋（花巻市南万丁目1391）  
（花日和2019年6月夏号より）



### この夏から秋へ賢治関連イベント二つご紹介

今年も花巻市の生涯学習課から夏休みイベントカレンダーが発表されましたが、その中から秋まで続くイベントを二つ紹介します。

一つは、毎年好評の童話村のライトアップが今年も開催されます。童話村の「妖精の小径」「山野草園池」「小川」「芝生広場」「ロッジ」の5エリアで宮沢賢治の世界を幻想的に表現しています。広場奥のロッジエリアでは、シロツメクサのランプやダイヤモンドのオブジェが新しく登場します。スタンドグラスの柔らかな光と童話村の自然の調和がみもの。

7/27から11/10、金・土・日・祝日の日没から午後9時まで。（9/7、8、28、29はお休み。）

今一つは、宮沢賢治記念館の特別展「童話“祭の

晩”」です。賢治の童話には「山男」が登場するものがいくつかありますが、「祭の晩」もその一つ。どこか優しくもの悲しさを感じさせる少し変わった黄金色の目の「山男」が祭り（多分花巻まつり）の夜を過ごします。特別展は7/20から10/27まで、本年度修復した直筆稿が9/14(土)～23(月)公開されます。  
（広報はなまき7/1号より）



### 花巻東の第101回夏の甲子園大会

今年の花巻東の県予選は2度の終盤からの逆転勝ちを経て2年連続10回目となる夏の甲子園出場を決めた。（この10年間で5回出場）今年の県予選は高校野球史上最速163キロの速球を投げた大船渡高校の佐々木朗希選手で盛り上がり熱の入った大会でした。（163キロは菊池雄星、大谷翔平が高校生の時より早いピッチャーです）

県予選は逆転の花巻東と言われているように、リードを許しても動じない試合を行って決勝に進出。決勝は大船渡と対戦。大船渡は準々決勝で延長11回194球投げた佐々木投手は投げ過ぎという監督の指示でベンチスタートでした。結果は花巻東が大勝で県代表となったが、佐々木投手が決勝で投げなかったことがピッチャーの球数制限の問題の議論を巻き

起こし、これからの高校球界のあり方を問われる事へと発展しました。

甲子園では4日目の8月9日徳島県代表の鳴門と対戦、鳴門はここ10年間で8回出場の強豪のチーム。1回に2四球と犠打等で攻められ3点を失い、又6回にも小技で攻撃され3点追加された。結果は10対4で敗退。両校とも10安打でしたが初回の3点が重荷になり追いつくことができませんでした。

今年のレギュラーの中に神奈川県の中学校を卒業した水谷という2年生で4番の選手がいました。花巻東は岩手県内の生徒だけとっていましたが県外の選手がいることにビックリしました。来年もこの水谷選手を中心に甲子園に出場することを期待したいものです。  
（高橋良光）

## 《はなまき あれこれ》

### 駅近くで造りたてビール 花巻・醸造所併設店プレオープン

花巻市大通りのJR花巻駅東口近くにビール醸造所が併設されたパブ・カフェ「Lit workplace」が18日、プレオープンする。同店は2017年10月に遊休不動産を活用して新規事業を起こすことを目的に開催された「花巻リノベーションスクール@花巻」で、参加者が提案した事業計画案の一つ。市内の雑穀などを原料とした造りたてのビールを楽しめるのが魅力で、まちの活気づくりの役割が期待される。

同スクールでサブユニットマスターを務めた高橋亮(トオル)さん(34)＝同市桜町＝が、事業計画案を煮詰め開店にこぎ着けた。1階の醸造所でビールを造り、2階で販売する。プレオープン期間中は同市石鳥谷町で作られた雑穀を原料としたコクのある「スタウトビール」など、6種類のクラフトビールを提供する。開店を祝うパーティーが16日に店内で開かれ、市内外の約150人が参加。参加者は自ら

グラスにビールを注ぎ、味わった。

プレオープンは8月上旬までを見込んでおり、その後、本格オープンする。

プレオープン期間中は午前6時半～午後5時がカフェ、その後、同10時までパブとして営業(閉店時間は変更の可能性あり)。ビールは1杯600～900円で、チーズやナッツなどの盛り合わせも提供している。問い合わせは高橋さん経営のカフェ、ジョーズラウンジ(0198-29-5655)へ。(岩手日報7月18日より)



### 日本ワインフェスティバル花巻大迫2019が終了

5月25日、26日の二日間、大迫交流活性化センターを主会場に「日本ワインフェスティバル花巻大迫2019」が開催されました。3年前に始まったこのフェスティバルは年々盛んになってきており、今年は北海道、東北、関東、甲信越地方から過去最高の41ワイナリーが集結し日本有数のフェスティバルとなりました。会場では196種類のワインが訪れた大勢のワインファンを楽しませました。

26日には、日本ソムリエ協会会長の田崎真也さんによるトークショーが2部構成で行われました。田崎さんは、過去に大迫町を訪れた際の思い出や、日本でのワインの普及活動、それにワインに合う食べ物の選び方なども披露し、来場者は聞き入っていました。

家族3人で訪れた盛岡市の高橋さん(29歳)は

「初めて地元のワインを飲んでみたが、凄く美味しかった。娘が生まれた2018年のワインを飲んで回りたい」と笑顔を見せていました。又、初出店した「オサワイナリー」(小樽市)の長直樹代表取締役は、「暑いのでスパークリングが出ている、お客さんの反応も良く、穏やかに楽しんでもらっている」と述べていました。

(広報はなまき6/15号、岩手日日新聞5/26号より)



### 花巻市・平塚市友好都市提携35周年

令和元年度は、花巻市が平塚市と友好都市の提携をしてから35周年となります。両市の交流は、昭和57年、平塚市市政50周年記念事業として、旧花巻市が「市民休養の郷」の指定を受けたことから始まりました。その後、2年間のふれあい事業を経て、昭和59年旧花巻市の市政30周年を機に「友好都市」を提携し、合併後の平成18年4月、友好都市継続の調印を行っています。

両市の間では、毎年交流事業を行っているほか、5年ごとに周年記念事業を行っています。又、両市民の間では、文化、教育、産業、経済などの各分野で交流が行われていて、昨年度までで述べ1万2千

人が参加しています。両市の交流事業は花巻市から、七夕まつり郷土芸能派遣、友好都市高山市・花巻市・伊豆市三市合同物産展「秋の味覚市」出店など、平塚市からは、少年少女交流キャンプ派遣やイーハトーブレディース駅伝選手派遣などがあります。在京花巻人会も、数年前までは湘南平塚七夕まつりに七夕飾りを制作して参加していました。

今年度は、35周年を記念して七夕にあわせて7月6日～7日に花巻市からの平塚訪問市民ツアーを実施、平塚市からは花巻まつりの9月14日～15日に花巻訪問平塚市民ツアーが来訪します。

(広報はなまきより)



### 湖底に眠るふるさと(後篇)



高橋 憲一  
(前田中24年卒)

「別れの日」 昭和二十七年の六月二十日、小学校において村主催の離別式を催してくれた。里の人達老若男女、中にはリヤカーで出席した人も見受けられた。部落を代表して高橋喜之助氏が次のような謝辞を述べている。(残されている原稿の一部から) 「ダム計画は着々と進み、我々が生きる全ての前途は遮られたのであります。一町六ヶ村の農業経営の安定を期する百年の大計に敢えて犠牲を避けよとするものではなく今は毎日毎日移転後の更正のみ心に集注され、道で行き交う人と合っても学校や公民館に

集まっても一体どこにどうなったらいいのだろうと移転後のことのみ語ってまいりました。それにしても移転補償費は思つように捗らず最低水準でもと積算した要求額の半分にも満たない額が示され、なんとか実際基本額に近づけようと四百余名今後の生活を背負い上京陳情も五回に及びましたが、農林省では最初の線を一步も譲らず我々



豊澤大念仏剣舞

たい尊い「ふるさと」であります。一本の木にも一握りの土にもその一つ一つに祖先の魂が打ち込められ血が通っているのではありません。受け継いできた土地も家も野も山も金銭にかえられ、これに懐に親戚とも別れ離れ、これからの住み場所を探し求めていずこかに分

の力では糸口を見い出し得ず、事も難しくなつたのであります。幸い村長さん、改良区理事長さんのお力添えと並々ならぬご苦労を頂き、最終的には増額に漕ぎつけて頂きました。有難うございました。(中略)

れ散って行かなければならない切ない運命に至つたのであります。古き歴史も伝統も日毎頻繁に鳴り響く発破の音と共に破壊されてゆくのではありませんが、我々はお互いに幸せを祈り奮起更正を誓い合い別れを告げる覚悟であります。お世話になつてきた村の恩情は決して忘れません。これからも見捨てることなく... (以下略)

### 元豊沢集落関係の歩み

弘安3年(1280)	光林寺和尚宿阿上人豊沢で阿弥陀像(現ご本尊)発見。
永享8年(1436)	台城一族高橋新助南部氏に敗北豊沢に逃げ開拓した(伝)。
慶応元年	豊沢村平和建設運動の方針(掟10か条)設定
明治8年	私立豊沢学校創立 豊沢青年団結成(会員40名)
◇ 28年	中山街道工事(豊沢~沢内川舟)
大正8年	大千ばつ(下流農民水争い激化す)
昭和8年	関係町村、ため池建築期成同盟会結成。
◇ ~	豊沢部落民ため池建設反対運動続ける。
◇ 16年	豊沢ダム建設工事着工(県営) 戦時中一時中止
◇ 21年	部落に電灯ともる、部落公民館落成(県下2番目)
◇ 23年6月	豊沢の三ツ口に樺太内ほろ開拓団[12世帯]入植
◇ 24年	ダム工事、国営事業となる。同年生徒数小63名中38名
◇ 27年4月	移転賠償契約締結 6月部落解散会
◇ 36年5月	ダム完工式 ダム初放水式

戸と解体し遺骨を抱いて里から散り去つて行ったのだ。屋号「垣根」の喜代治じいさんが解体の日古ぼけた柱にしがみついて「今度町さ出来る家なんぞ俺の家でにや。俺の家ここしかにや。いから俺ここさ残してける」とおいおい泣き続けたこともみんなの語り草になったのだ。このころ思っていることな」

わたる灌漑に用いられるとともに水道や産業用水にも大きな役割を果たしています。この恩恵の陰には先祖伝来の地を捧げた先人の苦渋の選択に思いをする時、胸に迫る切ない思いがあります。反面これがダム建設反対運動が功をなし、厳しい自然の山里で今も生活しておつたらどうなつていただろうか。若人はみな職を求めて里を離れ年寄りだけの過疎の寂しいものになつていたであろうことを思うとダムに捧げた部落の運命はこれで良かったのだと思つたりしているこの頃でもあります。(完)

親睦  
交流

## 第25回 歩こう会

## 新橋から愛宕神社を巡り麻布十番へ

理事 照井 稔

恒例の「歩こう会」が好天に恵まれた5月25日(土)40名が参加して行われた。今回はJR新橋駅SL広場に10時に集合。烏森神社から新虎通り、虎の門ヒルズ、愛宕山神社、NHK放送博物館、スウェーデン大使館、泉ガーデンから麻布十番駅までの約4.5kmのコースでした。

朝一番の烏森神社は想像以上にお参り客が多く、待って参拝する人もあった。新虎通りの中頃には「浅野内匠頭終焉の地」の碑があり、粗相の挨拶に使うと言われている「切腹最中」の和菓子屋があったので話題として試食したところ、素晴らしいこしあんがたっぷりでした。

都心で一番高いといわれる愛宕山(標高26m)は登って見ると意外と高く感じました。神社にお参りの後、昼食。午後はNHK放送博物館を見学、エレベーターで愛宕下に降り、初めての愛宕トンネルを抜け、桜田通りから麻布通りは緑の多い静かな住宅地で、途中には赤色の洒落た外観のスウェーデン大使館や泉ガーデンタワーマンションなどが点在し、散歩道にも最適の所と感じました。後ほど地図を確認したところ、近くにはアメリカ大使館のほかロシア、サウジアラビ

ア、スペインなど多くの国の大使館の所在地でもありました。終着地、地下鉄麻布十番駅は麻布通りを約1km下り、15時30分頃に到着。皆で話題のお土産品を覗いてからの解散となりました。

木陰のなかも歩いたとはいえ4時間を超えて歩いたわけで、喉も乾いていましたので駅近くの「居酒屋」での2次会には誘われるままに参加、麻布十番在住の会員の2名も馳せ参じ、ビールで乾杯となり、疲れもとれた18時頃お開きとなりました。



## 花巻まつりツアー実施のご報告

去る9月14日(土)～15日(日)、在京花巻ふるさと会主催による「花巻まつりツアー」は、在京花巻人会が幹事となって実施され無事終了しました。8年続いた「復興支援ツアー」に一区切りつけて、今年から新たに四つのふるさと会が1年ごとに相談しながらふる里支援のツアーを企画していくことになりましたが、その第一弾となりました。

今年の花巻まつりは13日(金)～15日(日)、二日目の14日昼頃に約半数は新幹線で、残りの半数は別途花巻入りし、一行約50名はグランシェールの宴会場で催された歓迎昼食会に臨みました。昼食会では長井副市長が挨拶され、上田市長にも挨拶に駆け付けて頂くなど、花巻市の歓迎ぶりに参加者一同大満足でした。

3時頃にお祭り広場に移動、4時頃からまつり見物が始まりました。例年雨の多い花巻まつりですが今年

は見事な晴天に恵まれ、豪華絢爛な山車と勇壮な神輿、それに鹿踊のパレード等、四百年以上の歴史を誇る花巻まつりを存分に堪能しました。

15日は、午前中特産品フェアが行われている市民体育館でお土産の買い物、午後はバスで大迫の第50回ワインまつりに参加しました。この日も素晴らしい晴天の中、緑の山々に囲まれた美しい大迫で、ワイン娘のぶどう踏みなどを見ながらたっぷりワインを楽しみました。その後、花巻市総合文化財センターで大迫の歴史展示を見学、花巻と大迫の興味深い歴史を学習することが出来ました。

会員の皆様にツアーの無事終了を報告すると共に、参加頂いた皆様に感謝を申し上げます。花巻まつりツアーについては会報1月号で特集記事を組む予定です。(編集部)

在京花巻人会の顧問  
高瀬善平氏ご逝去

会長 瀬川紘一

去る7月12日、在京花巻人会顧問の高瀬善平さんが89歳でお亡くなりになりました。お嬢様の森様より事務所に連絡があり、肺炎で3ヶ月入院されてそのままお亡くなりになりました。NHKでは海外特派員も務められ、その後も放送人として活躍されましたが、生前から自分の人生に満足していると仰っていたとかで、最後も大往生だったとのこと。個人的なことになりませんが、善平さんは私が小学生の頃は憧れの花中・花高野球部の名サード、私が在京花巻人会の会長を引受けてからは何かと励まして頂きました。3年ほど前に東京桜雲会に出席された時にお会いしたのが最後となりました。生前のご指導ご鞭撻に感謝申し上げますと共にご冥福をお祈り致します。